

**2022年度（2023年3月期）
第1四半期連結累計期間
（2022年4月～6月）
決算説明資料**

2022年7月27日
FDK株式会社

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

© 2022 FDK CORPORATION

2022年度第1四半期決算概要について、ご説明いたします。

1. 2022年度第1四半期の業績	
2022年度第1四半期連結決算概要	3
営業利益変動要因（前年同期比）	4
連結貸借対照表	5
セグメント別情報	6
2. 2022年度（通期）見通し	8

今回ご説明させていただき内容です。

2022年度第1四半期連結決算概要

FDK

(単位：億円)

	2021年度 1Q	2022年度 1Q	前年同期比	
				増減率
売上高	148.6	154.6	+6.0	+4.0%
営業利益 (営業利益率)	7.2 (4.9%)	3.2 (2.1%)	△4.0 (△2.8pt)	△55.7%
経常利益 (経常利益率)	6.9 (4.7%)	4.5 (2.9%)	△2.4 (△1.8pt)	△34.3%
四半期純利益※ (純利益率)	10.7 (7.2)	1.6 (1.1%)	△9.1 (△6.1pt)	△84.5%

※親会社株主に帰属する四半期純利益

1株当たり四半期純利益	31.15円	4.83円	△26.32円
-------------	--------	-------	---------

為替レート	(円/1USD)	109.83円	126.50円	+16.67円
	(円/1EUR)	131.87円	136.76円	+4.89円

ROIC※	2.7%	0.2%	△2.5pt
-------	------	------	--------

※ROIC = 税引後営業利益 / (自己資本 + 有利子負債)

© 2022 FDK CORPORATION

はじめに、連結決算概要です。

■ 売上高は電池事業のアルカリ乾電池が減少しましたが、電池事業のニッケル水素電池とリチウム電池、電子事業の各種モジュール、スイッチング電源やトナーなどが増加したことにより、前年同期に比べ6.0億円増加の154.6億円となりました。

■ 営業利益は各種モジュールの売上増や経費削減による利益増加がありましたが、原材料価格高騰の影響が大きく、前年同期に比べ4.0億円減少と概ね期初想定どおりの3.2億円となりました。

■ 経常利益は前年同期に比べ2.4億円減少の4.5億円となりました。

■ 四半期純利益は前年同期に4.5億円の関係会社清算益を特別利益として計上したことや法人税等調整額の増加により前年同期に比べ9.1億円減少の1.6億円となりました。

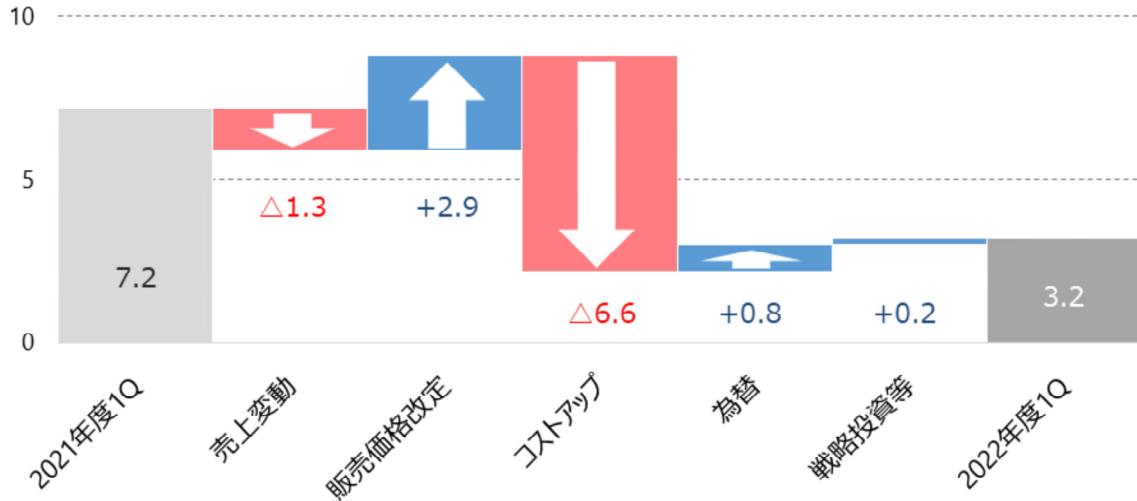
■ ROICは前年同期に比べ2.5pt減の0.2%となりました。

営業利益変動要因（前年同期比）

FDK

（単位：億円）

	2021年度 1Q	2022年度 1Q	前年同期比	
				増減率
営業利益 (営業利益率)	7.2 (4.9%)	3.2 (2.1%)	△4.0 (△2.8pt)	△55.7%



© 2022 FDK CORPORATION

次に、営業利益の変動要因です。

■ 部材調達難に伴う生産数量減で1.3億円減益となる一方、販売価格改定により2.9億円増益となりました。

原材料価格高騰の影響による6.6億円減益の影響が大きく、為替影響の好転0.8億円がありました。前年同期に比べ4.0億円減益の3.2億円となりました。

連結貸借対照表

FDK

(単位：億円)

科目	2021年度	2022年度 1Q	増減	科目	2021年度	2022年度 1Q	増減
流動資産	319.9	325.0	+5.1	流動負債	314.5	311.8	△2.7
(商品及び製品)	(36.5)	(38.0)	+1.5	(短期借入金)	(121.9)	(117.0)	△4.9
(仕掛品)	(25.8)	(27.0)	+1.2				
(原材料及び貯蔵品)	(44.1)	(48.8)	+4.7				
固定資産	149.0	149.2	+0.2	固定負債	29.9	28.9	△1.0
(有形固定資産)	(140.3)	(141.7)	+1.4	(退職給付にかかる負債)	(22.8)	(21.8)	△1.0
				負債合計	344.4	340.8	△3.6
				株主資本	124.5	126.1	+1.6
				(利益剰余金)	(△454.3)	(△452.6)	+1.7
				その他の包括利益累計額	0.0	7.2	+7.2
				(為替換算調整勘定)	(15.6)	(22.2)	+6.6
				純資産合計	124.6	133.4	+8.8
資産合計	469.0	474.2	+5.2	負債純資産合計	469.0	474.2	+5.2

自己資本比率	26.6%	28.1%	1.5pt	有利子負債残高	123.4	118.3	△5.1
--------	-------	-------	-------	---------	-------	-------	------

© 2022 FDK CORPORATION

次に、連結貸借対照表です。

■ 総資産は、前年度に比べ5.2億円増加の474.2億円となりました。

■ 流動資産は、前年度に比べ5.1億円増加の325億円、固定資産は前年度に比べ0.2億円増加の149.2億円となりました。

流動資産増加の主な要因は、電子部品や樹脂部品の調達難に伴う先行手配や材料不揃いによる生産遅延、原材料価格の高騰などにより、原材料などの棚卸資産が7.4億円増加したことによるものです。固定資産増加の主な要因は、有形固定資産が1.4億円増加したことによるものです。

■ 負債合計は、前年度に比べ3.6億円減少の340.8億円となりました。

■ 流動負債は、前年度に比べ2.7億円減少の311.8億円、固定負債は前年度に比べ1.0億円減少の28.9億円となりました。

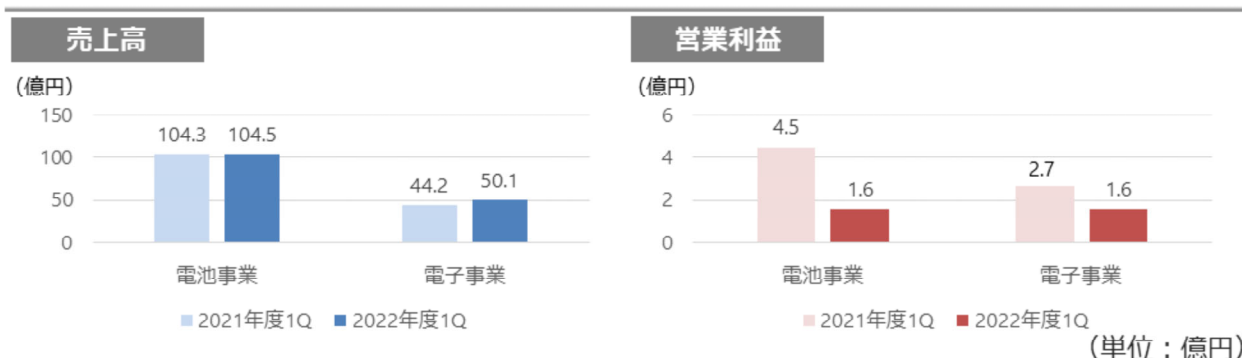
流動負債減少の主な要因は、債権回収代金等で短期借入金の返済を進めたことにより、短期借入金が4.9億円減少したことによるものです。固定負債減少の主な要因は、退職給付に係る負債が1.0億円減少したことによるものです。

■ 純資産合計は、前年度に比べ8.8億円増加の133.4億円となりました。

純資産増加の主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより利益剰余金が1.6億円、為替換算調整勘定が6.6億円増加したことによるものです。

■ 有利子負債残高は、主に借入金の返済により前年度に比べ5.1億円減少の118.3億円と2000年度以降最も低い水準となりました。

セグメント別情報



		2021年度 1Q	2022年度 1Q	前年同期比	
				増減額	増減率
電池事業	売上高	104.3	104.5	+0.2	+0.1%
	セグメント利益 (率)	4.5 (4.3%)	1.6 (1.5%)	△2.9 (△2.8pt)	△64.3%
電子事業	売上高	44.2	50.1	+5.9	+13.3%
	セグメント利益 (率)	2.7 (6.3%)	1.6 (3.2%)	△1.1 (△3.1pt)	△41.8%
合計	売上高	148.6	154.6	+6.0	+4.0%
	営業利益 (率)	7.2 (4.9%)	3.2 (2.1%)	△4.0 (△2.8pt)	△55.7%

© 2022 FDK CORPORATION

次に、セグメント別の情報です。

■ 電池事業の売上高はアルカリ乾電池が減少したものの、ニッケル水素電池とリチウム電池が増加したことにより、前年同期に比べ0.2億円増加の104.5億円、セグメント利益は原材料価格高騰の影響により、前年同期に比べ2.9億円減少の1.6億円となりました。

■ 電子事業の売上高は各種モジュール、スイッチング電源、トナーなどが増加したことにより、前年同期に比べ5.9億円増加の50.1億円、セグメント利益は為替や原材料価格高騰の影響により、前年同期に比べ1.1億円減少の1.6億円となりました。

セグメント別情報（売上概況）

FDK

（単位：億円）

		2021年度1Q	2022年度1Q	前年同期比	
					増減率
電池事業	売上高	104.3	104.5	+0.2	+0.1%
	セグメント利益 （率）	4.5 (4.3%)	1.6 (1.5%)	△2.9 (△2.8pt)	△64.3%
	■ニッケル水素電池	【増収】	海外の工業用途向けが堅調		
	■アルカリ乾電池	【減収】	2020年度に実施した海外製造子会社株式譲渡による海外向けや国内同業向けが減少		
	■リチウム電池	【増収】	国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調		
電子事業	売上高	44.2	50.1	+5.9	+13.3%
	セグメント利益 （率）	2.7 (6.3%)	1.6 (3.2%)	△1.1 (△3.1pt)	△41.8%
	■各種モジュール	【増収】	モビリティ・タブレット用途向けが増加		
	■スイッチング電源	【増収】	半導体装置用途向けが堅調		
	■トナー	【増収】	所要が増加		

© 2022 FDK CORPORATION

次に、セグメント別の売上概況です。

- ニッケル水素電池は海外の工業用途向けが堅調に推移したことにより、前年同期を上回りました。
- アルカリ乾電池は2020年度に実施した海外製造子会社株式譲渡による海外向けや国内同業向けが減少したことにより、前年同期を下回りました。
- リチウム電池は国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調に推移したことにより、前年同期を上回りました。

この結果、電池事業全体の売上高は、前年同期に比べ0.2億円増加の104.5億円、セグメント利益は原材料価格高騰の影響により、前年同期に比べ2.9億円減少の1.6億円となりました。

続いて、電子事業については、

- 各種モジュールはモビリティ・タブレット用途向けが増加したことにより、前年同期を上回りました。
- スイッチング電源は半導体装置用途向けが堅調に推移し、前年同期を上回りました。
- トナーは所要増により、前年同期を上回りました。

この結果、電子事業全体の売上高は、前年同期に比べ5.9億円増加の50.1億円、セグメント利益は為替や原材料価格高騰の影響により、前年同期に比べ1.1億円減少の1.6億円となりました。

2022年度（通期）見通し

FDK

（単位：億円）

	2021年度 （実績）	2022年度 （予想）	前年度比	
				増減率
売上高	614.5	630.0	+15.5	+2.5%
営業利益 （営業利益率）	20.8 (3.4%)	12.0 (1.9%)	△8.8 (△1.5pt)	△42.4%
経常利益 （経常利益率）	19.6 (3.2%)	10.0 (1.6%)	△9.6 (△1.6pt)	△49.2%
当期純利益※ （当期純利益率）	7.4 (1.2%)	7.0 (1.1%)	△0.4 (△0.1pt)	△5.5%

※親会社株主に帰属する当期純利益

1株当たり当期純利益	21.47円	20.29円	△1.18円
------------	--------	--------	--------

為替レート	（円/1USD）	112.08円	110.00円	△2.08円
	（円/1EUR）	130.56円	125.00円	△5.56円

© 2022 FDK CORPORATION

8

次に、2022年度の見通しです。

■ 通期連結業績予想は、2022年4月27日発表の公表値を据え置いております。

2022年度第1四半期連結累計期間は前年同期と比較して増収減益となりましたが、自助努力によるコスト削減を上回る原材料価格の高騰、電子部品や樹脂部品の調達難などの外的要因が主な要因となります。今後もこれらの状況を見据えた対応をとることで、期初公表値の達成と中期事業計画目標値との差異縮小に向けて取り組んでまいります。

■ 売上高は、630億円で15.5億円の増収。

■ 営業利益は、12億円、純利益は7億円の見通しです。

■ 為替レートは、1USD、110円、1ユーロ、125円を想定しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

また、本資料では、業績の概略として多くの数値は億円単位で表示しております。決算短信等で百万円単位で開示しております数値を切り捨て表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが不正確に見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信または有価証券報告書を参照していただきますようお願いいたします。

FDK

確かな技術 育てる未来